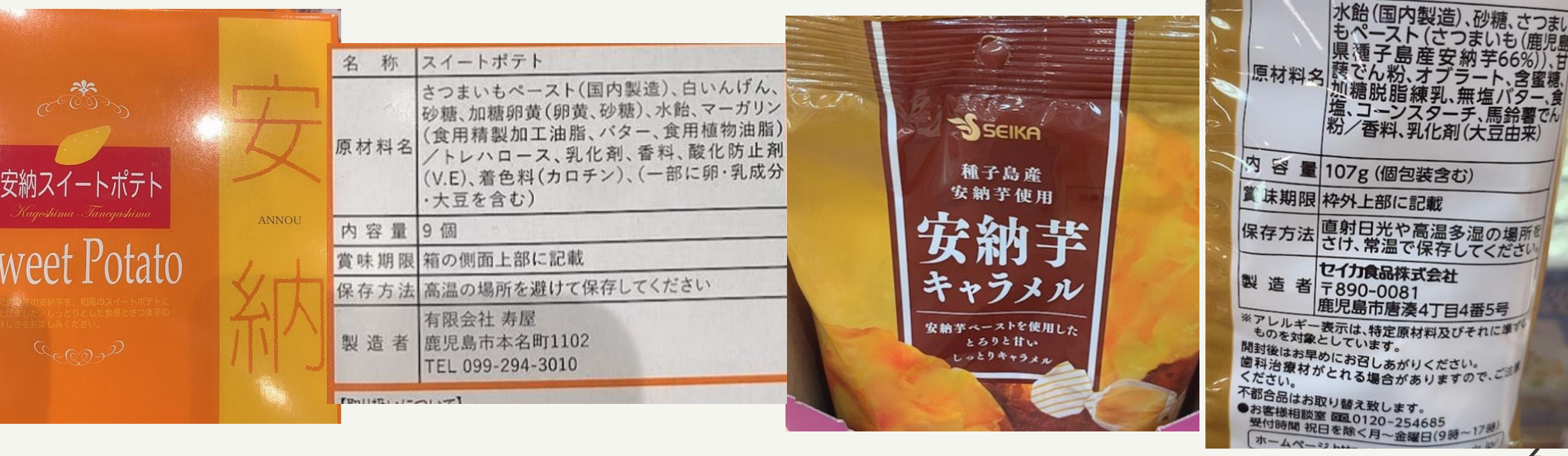


安納芋の生産・加工の一貫化による雇用の創出と地域活性化の可能性

法文学部人文学科3年 大窪悠莉

awareness of the issues

種子島産安納芋を使ったお菓子、お土産は数多く存在するにもかかわらず、種子島で製造されたものがほぼ見当たらない！



市役所の職員によれば...

以前は製造業も誘致していたが、今はITや宇宙関連産業が多い。島外の企業を誘致するよりも、**地元の企業に商品開発や六次産業化を頑張ってもらいたい。**
工場を島内に作った方がいいと考えたことはあるが、人手不足や農家の方があまり積極的でないなどの理由で実現していない。

【2021年11月6日～7日に発表者が実施した種子島での聞き取り調査による】

種子島高校の現状

種子島高校で高校生たちが種子島におけるパイオ苗の50%を生産する

にもかかわらず

専門を生かした進路先に進む生徒が少ない
→子供関係や美容関係が多い
就職は110人中40人 島内に残るのは1割

工場誘致が成功すれば高校生が専門を生かした形で島内での就職口が確保できる

課題意識

安納芋の栽培から最終加工まで島内で一貫生産すれば...

島外への支出の減少
雇用の創出
高校生は専門を生かした島内就職

島は元気に

=問題解決につながるのではないかな？

しかし、地元だけでは一貫生産することは難しい

島外から工場誘致をする必要がある！

問い

種子島において安納芋の一貫生産ができるように工場誘致を成功させるためにはどうすればいいか！？

種子島での現状

- 種子島では生産が主で、加工品と言えばペーストや干し芋、焼き芋、グラッセなどの付加価値の低い一次加工品
- ▲ 加工用の芋として5.5ha分を輸送しており、コストがかかっている
- 加工するために企業が種子島に参入した例はない

八丈島乳業株式会社

乙部町農業再生プラン

→八丈産牛乳の増産と乳製品カフェの展開

→ネピュレ株式会社や株式会社ベジテックと協力し農業の再構築を目指す

八丈島「酪農王国」
→産業構造の変化の中で次第に衰退
酪農事業の拡大だけでなく、観光バスが立ち寄る八丈ビジターセンター内にカフェをオープンすることで島外からの資金獲得、島内の経済及び雇用の拡大が見込まれる

農家の高齢化、労働力不足、農産物価格の低迷、負債整理対策などにより農家数が減少
→ネピュレ株式会社や株式会社ベジテックに出会い、輪作体制の確立や組織体制づくりによって農業の再構築
栽培から出荷・選別・販売を行う農家の意欲向上、経営規模の強化

出典：八丈島乳業株式会社の公式ウェブサイト、北海道乙部町の乙部町農業再生プランの公式ウェブサイト

11

成功事例の要件

【自立性】...住民、企業や団体との連携による地域の一体性の有無
八丈島...八丈島の酪農経営は唯一ノホテル経営の会社が参入
乙部町...乙部町と企業が連携して取り組みを行っているノ農業者自らが生産組合を組織

【着眼性】...地域資源を発掘して磨きをかけて地域ブランドを確立
八丈島...明治初期から乳牛を育てる土壌があった八丈島でジャージー牛を育てるノ天候に左右されず工場が稼働でき、土地の有効活用ができる酪農に着目
乙部町...冷涼な気候と恵まれた土地資源を活用し、北海道の在来種を育てる

【開放性】...地域外と人的交流をする
八丈島...八丈島ジャージー牛乳が首相夫妻主催の晩餐会で使用される（2019年秋）
乙部町...2005年～2014年販売実績は約2倍 ブロccoliリーにおいては約3倍

出典：鍋山徹「地方創生の事例とその評価～成功事例と失敗事例を判別する4つの要件～」一般財団法人日本経済研究所『日経研月報』2018年8月号

12

成功要因

- ①製品を作るうえでの土壌がある
- ②地域性や希少性がある
- ③企業と行政が同じ方向を向いて取り組んでいる

安納芋は西之表安納地区で作られたものであり、現在でも十分な量を生産、またその品質にも定評があり。OK
地域性→安納芋は西之表安納地区で作られているOK
希少性→ブランド認証マークの導入 地理的表示など更なるブランド化の推進OK
それぞれが独自の取り組みを行っており、官と民の連携がやや不十分であるように見受けられた。官と民が同じ目標に向かって協力し合う関係を築く必要性→連携が実現すればOK

企業側のメリット

- ・ 安納芋の本場本元で作っている。→ブランド化が進めば種子島で作っているというブランド意識も生まれる。
- ・ ささまざまな助成金や補助金の支援が受けられる。
- ・ 安納芋の詳しい人間からのサポートを受けやすい。関連企業との接近性
- ・ 地価が安い（2020年基準地価 平均1万6525円/m2）
- ・ 恵まれた自然条件や人情味豊かな風土が魅力

デメリット

- ・ ITインフラ整備が不十分な地域がある。
- ・ 設備の移動にコストや手間がかかる。
- ・ 天候によって不作、品薄になる可能性がある
- ・ 流行りものであるため、新しい芋が台頭してきたら可能性がある→ブランド化を進めることが大切

出典：土地データ

島にとっての短期的なメリット

- ・ 地場産業と連携して取り組むことでお互い発展する。
- ・ 雇用の創出や働き口の増加。
- ・ 税収が増える。
- ・ 規模が大きい企業の誘致であれば、島内の人口が増える。
- ・ 新たな需要が生まれ、経済波及効果がある。

デメリット

- ・ 早急にインフラ整備を進める必要がある。
- ・ 農家の方を説得する必要がある。
- ・ 地元の企業を圧迫する可能性がある。

島にとっての長期的なメリット

- ・ 現在サービス業を除けば最も多いのは農業従事者であり、甘藷は成長産業である。→加工まで島内でやればさらに拡大する可能性がある。
- 生産額：平成29年度 285,530（千円）→令和元年度 402,630（千円）
- ・ 未来の種子島、安納芋を担う人材の育成につながる
- ・ 税収が増加することで行政サービスが向上し、まちづくりも推進される。→種子島が発展することで種子島で暮らす人々がよりいきいきと暮らせる。

種子島で工場誘致を成功させるには

種子島には、十分生産力があり品質の高い安納芋という地域独自の作物があり、ブランド認証マークや地理的表示などブランド化に向けた取り組みによって希少性がある。現在、官と民はそれぞれで安納芋に向き合っているが、官民一体となって協力する体制をつくることで工場誘致ができる。

⇒工場誘致に成功すれば雇用の創出ができる。

そのため地域活性化につながる。

結論

種子島において安納芋の一貫生産ができるように工場誘致を成功させるためには、安納芋で地域活性化したいという思いの共有をすればいい！

そして、一貫生産は地域活性化や雇用の創出につながる現状では官民がそれぞれ動き、人手不足である。しかし、島内に安納芋の生産から加工まで一貫生産する工場を作ることで現状を打破することができる。そのために島外からの工場誘致は現実的であり、かつ、有効な手段である！

参考文献
鍋山徹「地方創生の事例とその評価～成功事例と失敗事例を判別する4つの要件～」一般財団法人日本経済研究所『日経研月報』2018年8月号
八丈島乳業株式会社の公式ウェブサイト
[https://www.hachijo-milk.co.jp/、https://www.hinagata-mag.com/report/21933、https://www.lidohotels.jp/park/farm.php]（2021年12月30日最終アクセス）
北海道乙部町の乙部町農業再生プランの公式ウェブサイト
[https://www.town.otobe.lg.jp/section/sangyou/eotaaloo00009b8.html、https://www.vegetech.co.jp/more/localproject.html]（2021年12月30日最終アクセス）
フィールドワークの詳細
上記参考文献の他、発表者が行った現地調査（フィールドワーク）におけるインタビュー調査などの知見も参照した。
実施日時：2021年11月6日～7日
調査回答者：横山義之氏（西之表市商工政策課商工政策係長）
松田憲政氏（一般社団法人安納いもブランド推進本部 事務局長）
益田美香氏（一般社団法人安納いもブランド推進本部）
西田隆幸氏（有限会社西田農産顧問）
沖田浩司氏（中国ファーム）

19